

グローバル化時代の日本の生きる途 ーアジアの冷戦は終わっていないー

第33回会員総会記念特別講演
(平成19年2月22日(火)於私学会館)

教育再生は我が国の最大課題 国際教養大学の勇氣ある挑戦



国際教養大学学長 中嶋 嶺雄先生



発行所

同台経済懇話会

〒104-0061 東京都

中央区銀座1-5-13

仰秀ビル6F

電話 (03) 5524-3520

FAX (03) 5524-3521

e-mail: dodai@decaa.org

http://www.decaa.org/

中嶋 嶺雄先生のご紹介

本会が昭和五〇年に創会を致しまして三十三年になるわけですが、その誇りある我が会の第三十三回の会員総会を終えたところです。只今から記念講演に移りたいと思います。中嶋先生には教育再生会議という重大な任務遂行中のところを格別のご配慮を賜り、只今から急遽本会のお出でいただきましたことにつきまして、一同心から感謝を申し上げる次第でございます。皆様ご存知の通り中嶋先生は現在の日本に於いて国際関係、特に中国政治について秀でられた学者、評論家であらうと見られます。中嶋先生は昭和十一年、長野県の松本市のご出身で東京外語大学の中国科を卒業後、東京大学の大学院で国際学を習得され博士号も東京大学で受けておられます。昭和五十二年より東京外語大学の教授になられ、平成七年に学長に就任されました。そして十三年まで名学長として東京外語大学の名を輝かせられました。またこの間国立大学協会の副会長、アジア太平洋大学交流機構の国際事務総長の重任を果たされました。現在は国際教養大学の理事長・学長として日本に於ける新しい大学教育の先頭に立って大活躍をしておられるわけでございます。またご承知のように文部省の中央教育審議会の委員として、安倍内閣の教育再生会議の委員として日本の教育改革に尽力されておられます。早速先生のお話を承りたいと存じますが、今日は世界のグローバル化の進展と新しい変動の兆しの中で日本がどう生きて行くべきかということと、私共の方からもお願いしたのでありますけれども、自ら先頭に立って新しい教育の旗を掲げておられます国際教養大学の建学の理念と教育の信念についても伺いたいと存じます。それでは宜しくお願い申し上げます。

グローバル化時代の日本 はじめに

只今ご紹介いただきました中嶋でございます。大変皆様方をお待たせして恐縮でございます。実は今朝は先程ご紹介にありました教育再生会議が朝から首相官邸でありまして、ちょうど十一

時から安倍首相も御出席というところでしたので、その前我々もいろいろと議論をした上で、出席されておられる安倍総理に、私からも発言をさせていただいて中座をしてみたい。教育再生というのはまさに今後の我が国にとって最大の課題だと

思います。安倍さんも非常に熱心に教育問題を考えていらつしやいます。いつも感心しますのは、お若いのに本当に日本がこのままでは駄目だということ、強い信念を持つていらつしやることです。そして教育再生を安倍内閣の一つの重要なバックボーンにされておられるわけですが、私は安倍さんがある種の開かれた保守主義、それを唱道されておられることに大変共感を覚えるわけです。安倍さんは短い期間の間にいろいろなことをされたと思うのですね。

安倍首相の 中国訪問について

最初は中国・韓国への電撃的な訪問によって、こじれていた日中間関係やいは日韓関係の修復に努められました。これは私の専門分野でもございますので、ここからお話しします。今回の安倍さんの特に訪中が成功した理由は三つあると思います。まず第一に従来の外務省のチャイナスクールに依存しなかったということです。その結果どういうことが起こったかと言いますと、晩餐会の時の安倍さんのスピーチです。従来はみんな中国側に事前に見せてアドバイスを受けてから日本の首脳が晩餐会ですピーチするという体たらくだったのです。今回安倍さんは断固

それを拒否しております。日本を代表する総理が相手にテキストを見て貰って晩餐会のスピーチをするなどというところは一切致しませんでした。従って安倍さんと外務省の谷内次官というラインが非常にうまく働いたということですね。これがひとつです。

それから第二は中国自身が日中間の改善を必要としていたということなのです。今中国は大変な問題を国内的に抱えております。経済成長をマスコミははやしたてるのですけれども、国中が乱開発で工事現場みたいになっている。従って安い建物を作っては壊しということですから、環境もすごく破壊されている。それで名目的なGDPは伸びるので「中国はマーケットだ、世界の工場だ」と言つて、大企業が次々に投資をする。それも全部GDPになりますから、数字の上では伸びます。ところが日本のマスコミも無責任と言うか、「本当に中国は世界の工場だ」と盛んにもてはやして来たにも関わらず、最近はどうでしょう。最近「中国、危ない」というような記事が出ているでしょう。初めから危なかったのです。そもそも共産党の独裁国家ですから、そこを忘れてしまつていたのでした。ここは非常に重要なところだと思います。中国に頼れば北朝鮮を抑えてくれると六者協議に期待する。私は従来か

らあの六者協議も非常に疑問に感じておりまして、今一番喜んでほくそ笑んでいるのは金正日です。核開発をして、ミサイルを飛ばしたがゆえにアメリカまでテーブルに着いて、「我々が欲しい重油を将来的には一〇〇万トンもくれるのだ」という状況なのですけれども、北朝鮮が崩壊して一番困るのは中国ですから。中国は地下水脈で北朝鮮と結びついていと思うのです。そこがわからずに何かあると「中国」「中国」と言つて来た日本外交の誤りだったと思います。

尖閣諸島のような領土紛争だけではなくて、東シナ海の油田ももう中国側はパイプでどんどん吸い上げていくわけです。そういう今までの対中国外交とは安倍さんは大きく違います。そして中国側をよく見ると江沢民の反日勢力と、北京オリビックも近いし日本との関係を何とかしないとやはり中国自身が持たないじやないかという胡锦涛との間の権力闘争が未だ結着着いていません。上海関が次々にやられています。上海の第一書記が解任されましたよね。にもかかわらず未だ政治局には残っているわけです。だからそれらの問題を含めて中国自身が安倍さんの訪中を望んでいたのです。安倍さんが訪中した翌日の人民日報は大きく安倍さんを紹介して、略歴まで全部紹介しているという異

例な状況が見て取れました。

それから三番目には、私は強く考えているのですが小泉さんが偉かったということでした。靖国問題で絶対に譲らなかったでしょう。最後まで公約を果たしましたね。マスコミは、安倍さんでは、小泉さんと同じように日中間関係は良くならないと言つていたけれども、小泉さんが一貫した態度を取つたがゆえに安倍さんにはフリーハンドが与えられたのです。この三つが大きな中国訪問の成果の原因だったと思います。

マスコミの安倍下ろし

しかし、一部のマスコミは安倍さんが中国に何か妥協したかのように報じています。教育再生会議も何か混乱しているかのように言います。しかし今日もいろいろ議論はありますが、教育問題は誰だって議論をすれば百人に百の意見がある。そういう状況の中で安倍さんは非常に頑張っておられます。マスコミはとにかく安倍内閣を引きずり下ろしたいのです。今度の教育再生会議も世論調査をしてみると、ゆとり教育の修正には殆どが賛成しています。それから教員の質の向上や教員の免許制度。本当に組合で謂わば旗を振っているような人達が教壇に立っているわけですから。そういうことについて教育の中立性を考えますと非

常に問題が多い。こういうことにしても我々はかなりの方向性を出しました。それについても世論調査では賛成が多いのです。マスコミが自分で書いてきたことと全然違う世論調査報告が出てきているのです。まだまだ第一次報告ですから、今後我々はきちんとしたものを出して行きたいと思っております。是非御支援いただきたいと思います。

マスコミからすると安倍さんは、非常に日本を保守主義の方に持つていくのではないかという思い込みがあるのです。保守主義と言っても当たり前のことで、日本は自由と民主主義の国ですから、安倍さんは先ず外交で電撃的な成功を収めました。

その次に教育に関連して更に言う。と念願の教育基本法を改正しました。教育基本法に関しては私もいろいろ意見があります。衆議院の公聴会の時にも申し上げました。愛国心という言葉を敢えて避けて、国を愛する態度とか他国を尊重するとかいうこと。北朝鮮まで尊重しては困るわけですから、そういうところは本当は直して欲しかったけれども、政局的な妥協。まあ言ってみれば自公連立ということがあったために若干妥協はしましたけれども、教育基本法が改正された以上は我々はそれを尊重して、家庭教育から直す。或いは学校教育を根本的に直す。そういう教育基本法の新しい在り方をや

り評価していかなければいけないわけ、教育再生会議は新しい改正教育基本法と連動しているのです。余りマスコミは報じたくないのでしょう。

そして防衛庁を防衛省に昇格させました。特に集団的自衛権は安倍さんは非常にはつきりした考え方を持っています。ですからそれらのことを数ヶ月に次々にやられたことは評価すべきで、私はその意味でもマスコミの安倍下ろしには同調しません。毎週毎週のように人気投票ではあるまいに、支持率が何%だとかということには気にすることはないのです。安倍さんのお爺さんは六〇年安保の時にあんなに反対されたの断固やり遂げたのですよね。私も学生時代、若気の至りで「岸を倒せ」なんて言ったのだけれども、あの時岸信介さんが断固貫いたから日本は大きな存在感を持つようになったと思います。

ベグロリーバルの壁崩壊から

さて今日はグローバリ化と国際教育大学という私共の大学についてお話しさせていただくという大変有り難い機会を得ました。先ずグローバル化と国際化とどう違うか。私自身も大学で講義を持つておりまして、私共の大学は全ての授業を英語で

やっております。最近ではグローバル化ということが盛んに言われるのです。国際化ということは以前から言われて参りました。国際化とグローバル化とどう違うのか。皆さんにもいろいろお考えがあると思います。やはり違うのです。日本は国際化しなければいけない。日本の大学はもつと国際化しなければいけない。それはその通りなのですけれども、あつという間に全世界が立体的に一つになってしまった。これがグローバル化なのですね。

グローバリ化を実は中国語で言う。と非常に判りやすい。グローブです。から球ですよ。或いは地球。電球の球もグローブ、それから地球もグローブ。地球全体が一体的になる。日本語では片仮名でグローバリ化と言っています。中国語で言う。と判りやすい。「全球化」と言うのですね。非常に判りやすいでしょう。球は地球ですから。この全球化が起こったのはいつ頃からかという、まさにベルリンの壁が崩壊したあの時期です。あの時期以降国境が低くなりましたね。ベルリンの壁というと私も非常に思い出がかりまして、あれはまさに同じ年に起こった中国の天安門の悲劇を代償にしていると思います。天安門事件が起こったのは八九年六月四日、その年の秋あつという間にベルリンの壁が崩れました。天安門事件は我々にも大きな衝撃を

与えましたけれども、特にソ連や東欧諸国に凄く衝撃を与えました。

ソ連の場合はご案内のようにゴルバチョフさんがベレストロイカとかグラスノスチとか、いわば共産主義からの離脱を始めておりました。天安門事件が起こる直前にゴルバチョフさんは北京に來ました。歓迎の嵐でした。天安門に座り込んでいた民主化を求める学生達に歓迎されるあまりゴルバチョフさんは天安門広場にも一歩も足を踏み入れずに帰国せざるを得なかった。たまたま私はテレビでその時に解説しておりましたけれども、その時に中国側で相手をしたのは趙紫陽です。趙紫陽さんはゴルバチョフさんとの会談の冒頭、左手を挙げて「中国では全ての重要事項の決定は鄧小平同志に委ねられています」と言いました。これはまさにその場でしかも言うえなかった言葉ですね。打倒鄧小平の宣言です。そして翌日からご案内のように人民解放軍も含めて、党・政・軍が真つ二つに割れて行くのです。ゴルバチョフさんと会談した年の五月九日、鄧小平の指令で李鵬首相が戒厳令を出しました。その戒厳令の中にも関わらず、鄧小平を批判する「赤い皇帝、鄧小平は退け」という声が北京を中心として全国に広まつて行つたのです。だからこそ五月九日以降、趙紫陽さんは軟禁状態になった。それ以降、彼が一昨年の暮

に亡くなるまで中国の最高指導者なのに遂に公衆の面前に姿を現すことはありませんでした。こういうドラマがあったわけですね。

東ドイツは当時ホーネッカーという人が独裁者でした。ベルリンの壁崩壊直前、マルクスも学んだというフンボルト大学という由緒ある大学が私を招いてくれました。森鷗外記念館なんかもすぐ近くにありました。大学のすぐ前にカール・マルクス広場というのがあります。このカール・マルクス広場が第二の天安門になりかねないので、私に天安門事件について講演をしてくれということで私は招かれたのです。そしてその知識人達にいろいろお話をさせていただきました。その頃ちょうど壁を越えれば銃殺されますので、勿論壁を越えることは出来ません。私も見て参りました。ずっと銃を構えている。しかし、ハンガリー、オーストリアを経由して東ドイツの難民がもう西へ国境を越えて逃れつつあったのです。そして同じ時期に丁度東ドイツではバツハで有名なセント・トーマス協会とかニコラス教会では東ドイツの民主化を求める集会が行われていました。私は西側にきて、今度は西側からベルリンの壁を見ました。そのようなことの直後にあの壁が崩れて行きました。皆さんもついこの間の光景をご存知だと思います。

グローバル化は進む

そういう現場体験を持つていたのですが、それ以降東西冷戦体制が消えたのです。そして国境が低くなりました。まさに国境はボーダーです。から、ボーダーがないのがボーダレス(Borderless)です。EUなんか出来るのもそうです。ですからグローバル化というのはいろいろな問題も犯罪もグローバル化するのです。この間ハンガリーの大学と交流協定を締結する時に行ってきたが、オランダから安い花がどんどん入って来てハンガリーのマーケットは非常に困っている。そんなこともあるのです。ですからハンガリーはオランダに負けないような高品質の花を作ることに転換したというのです。そういう時代になりましたね。我々は気が付かないけれども、我々日本人が食べているものの80%ぐらいは外国のものを食べているかもしれない。これは好むと好まざるとに関わらずグローバル化しつつあるというわけです。

自分のことをいろいろ申し上げて恐縮ですが、同じ八九年にアメリカの大学に天安門事件のシンポジウムで行きました。ユタ州のソルトレイクシティです。私を招いてくれた学者の家に夜行って、御馳走になりました。その時に「中嶋さんの論文はどのくらい出ていますか」と言う

ので、コンピュータで検索してもらいました。私は英語の論文をかなり書いておりますから。彼がぱっとアクセスしたら、ミネオ・ナカジマという英文の論文が画面にいつぱい出てきた。その頃未だ日本はそんな状況になっていませんでしたから、私はびっくりしました。今はITの発達によって世界が同時に繋がっているということですね。まさに同時性。英語で言うとsimultaneous、サイマル出版会とかありましたね。今でもサイマルという同時通訳の会社があります。同時性、simultaneousになつて来ているのです。

ボーダレスとサイマル化、これがこの二つの特徴が正にグローバル化で、全世界があつという間に繋がるようになりました。地球の裏側のブラジルだってコンピュータで時差も関係なくすぐ繋がる。こういう時代がまさにグローバル化なのです。

国際化というのはご案内のように国際ですから、国が基本となつて国と国との関係が国際関係、国際化です。ちよつと大学の講義のようになつて恐縮です。nationです。それが繋がるからinter。そしてインターナショナル(international)。internationalization「グローバル化はglobalizationです。やはり国際というのは水平的な関係です。立体的な関係ではない。だから国際化も多いに重要だけれども、まさにこ

の十数年はグローバル化です。天安門事件とベルリンの壁の崩壊を起こしたのが八九年です。天安門事件という中国の悲劇を代償にソ連・東欧が崩れて行つた。その頃から東西冷戦がなくなつて行くのです。

アジアには冷戦が残る

しかしアジアには先程言ったように共産党独裁体制の国がある。アジアには未だ冷戦が残っています。例えば台湾海峡、二〇〇八年オリンピックがある年の春は台湾の総統選挙があります。今台湾は中で少し政局が混乱していますけれども、陳水扁さんで初めて国民党から民進党という台湾の本土派の政権になりました。けれども、民進党は陳水扁さんを含めてそれまで独立運動をやつて来ていました。それ自体は非常に貴重な運動であつたと思いますが、統治能力と言う面では問題なのです。台湾が余りに素晴らしかったがために、李登輝さんは国民党で居ながら国民党を見事に改革したのです。その統治能力の差が明らかになつて来ました。その上に、いろいろな不祥事が起こっています。いったい民進党はどうなつていくのか。

そんなことで台湾が再び国民党に戻るかも知れないといつこの間迄思われていたのですけれども、国民党の総統候補になるはずの台北市長

だった馬英九さんが最近汚職で起訴されて国民党の主席を辞任しました。このまま行くと国民党の中で彼が総統選挙の候補者になれるかどうかはかなり問題です。日本にとつては、国民党特に馬英九さんなんかは総統になったら大変困ります。彼はむしろ中国との統一派ですから。連戦さんもそうですよね。連戦さんは「連戦連勝」というところから名前が来て、反日です。弟さんが生まれたら連勝という名前にしたかったが、生まれなかったのです。

馬英九さんは尖閣列島の問題でハーバード大学に学位論文を出した。もともと香港の出身で香港の人達是非常に反日的な人が多いのです。日中国交の時に、日本は台湾と断交し、椎名素夫さんのお父さんの悦三郎さんが特使として行きました。あの時に卵を投げたのが馬英九なのです。意外にそれは知られていませんけれども確信的な反日家です。中国の胡锦涛も江沢民に比べれば今日本との関係を改善したいという方だけでも、本当に彼等が日本のことを友好的に思っているかというところと全くそうではない。それはやがていろいろな点で明らかになると思います。もし安倍さんが靖国に参拝したなんて言うともうの凄惨な反日をまたやるかもしれませんね。その為にこの四月に温家宝とか次々に安倍さんに秋に来てくれとか戦略的な日中

関係をつくろうとしていますけれども、非常に要注意です。

それから台湾でも、政界再編が行われなければいけないというので八四歳の李登輝さんが頑張つて、いろいろな新しい提言をしていますからどうなるか判りません。しかし李登輝さんを含めて台湾は台湾だというアイデンティティが強くなった時に、中国は反国家分裂法という国内法を通して武力でも台湾を統一すると言っているわけですから、これは非常にアジアの我々の身の回りには特に軍事的な脅威があります。最近の中国の軍事的な増強は凄いのです。日本があんなに中国、中国と言つて腫れ物に触るようにODAを無償供与してきました。だいたい三兆円ぐらい。そして昔輸銀と言った輸出入銀行とかアジア開発銀行といった迂回融資をいれると七兆円ぐらい中国に貢いだにも関わらず、日本が常任理事国に入ろうとしたら「反対だ」という。そして日本から貰ったお金を廻してアフリカを組織したり、台湾なんかと関係の深い南太平洋諸国や中南米諸国を工作したり、大変なことをやっています。中国が日本の常任理事国入りに賛成すると言ったら、初めて我々は見直しても良いけれども、そうではないわけですから、そこところも是非考えてみていただきたいと思います。

「国際化」の言葉のはじまりはヤルタ協定

それから国際化ということでもう一つ申し上げますと、internationalという言葉自体は新しい英語です。私はいろいろ語源を調べました。検索をしたりオックスフォード大英辞典なんかで調べたのですが、シェークスピアの時代にinternationalなどという言葉はないのです。ヨーロッパにネーションステートが生まれて、ウィーン会議が行われて、ヴェルサイユ会議が行われて、そして二〇世紀になって international という言葉が出て来ました。しかし国際化 internationalization という言葉はまだ使われていません。

私がいろいろ調べた限り国際化という言葉が最初に使われたのは一九四五年、昭和二十年の二月なのです。ヤルタ協定です。「ヤルタ秘密協定の中で大連を国際化する」とあるので、プツシュさんも流石に偉いんですね。この間「今世紀の最大の歴史の過ちの一つにヤルタ協定がある」と言いましたね。ルーズヴェルトは亡くなる前でしたから頭がもうろうとしている状況でした。そしてチャーチルは日本のこと、アジアのこと、中国のことにも詳しくない。スターリンの思うままになってしまったわけです。三カ国はドイツが降伏後、ソ連が対日参戦することに

はみんな賛成でした。その時、本当に日本は人が良いのか、日ソ中立不可侵条約があるから、和平交渉が可能だなどと思つていた時に、ご存知のように長崎に原爆が投下された八月九日、ソ満国境を越えてわつと満州に入つて来たのです。この為にどれだけ日本が悲劇的な状況に陥ったか。そしてシベリア抑留という大変な悲惨な事になったわけですね。原爆は投下される。シベリアには抑留される。

そういう延長線上に日本の戦後というものがありません。にも関わらず見事に復活したわけですから、我々はずっと日本に誇りを持つていいと思います。ヤルタ協定の中に初めて使われているのです。旅順、大連の不凍港を求める。それから皆さんも関係されたかと思いますが満鉄。全部自分のところに資産を持つて行つてしまったわけです。日本の婦女子も大変な凌辱を受けたりしたわけです。そういう状況でして、国際化という言葉自体も非常に新しいのですが、今はグローバル化の時代に移っている。国際化とグローバル化はどこが違うかという私の意見を御理解いただければ幸いです。

新しい日本の大学の建設へ

さて、そこでそれでは今日日本の大

学は好きと好まざるとは開けず進みつつあるグローバル化にどれだけ対応しているだろうということですが、今後教育再生会議でもやりますし、私自身も新しい大学を作り上げて今日皆さんにご紹介したいのはそこなのです。これまで東京外大もそうなのですけれども国立大学では、先ず教育公務員特例法というのがありまして、一度大学の助手になればそのままずっと業績も挙げずに授業の工夫もせずに十年一日の如き授業をやっている、解任できずに教授になってしまふ。それが従来の日本でした。ところが今回大学の法人化によって、教特法というのが国立大学には適用されなくなりました。そして公立大学でも法人化したところには適用されなくなりました。

国際教養大学は丁度国立大学が法人化された平成十六年から開学致しまして、最初から法人化をしました。法人化第一号です。その翌年からは公立大学、首都大学東京とか幾つかの大学が法人化されました。現在公立大学の約三分の一が公立大学法人になっています。先程の教特法によりましてこんなことがありました。東京外大で百周年記念で国旗を舞台の上に置きたかったのです。ところがそれがけしからんというので学内は大騒動です。そして朝日新聞の記者なんか学内のそういう全共闘崩れのような教員と一緒になっ

て毎日のように記事を書く。苦勞をしました。外語は非常に古い明治六年に出来た国立大学です。国立大学は国のお金で運営されています。その百周年記念行事に国旗が掲揚できないなどということがあつてよいのか。外大はいざとなると会場が騒然となる可能性があつたのですから、いろいろ文部省とも打ち合わせました。荒川区の文部省の儀典局に行くといろいろな国の国旗があります。そこに学長自ら行きました。外大はいろいろな国の言葉があります。チェコ語もありますし、アジアではカンボジア語もありますから。そして教えている国の国旗を全部立てようということにしました。英米科の場合はイギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリアの国旗を立てました。日本語学科もありますから、世界の国旗を並べて日本の国旗が真ん中に来るように皆さん苦勞しました。それが国立大学の現実です。か。それが大学の現実です。

国際教養大学の特色

全世界からの学生と教員

グローバル化の時代に、本当に日本の大学でアイデンティティを持つた特色のある大学としてやっていけ

るかどうか。秋田杉は囲まれて空港からも近く、今私は殆ど秋田におります。大変きれいなキャンパスです。学長室から一分も行くと水芭蕉が群落で咲くというようなところで。ここには国旗と県旗、公立大学ですから秋田県の旗と、大学の校旗が青空の中に或いは雪景色の中に毎日のように掲げられています。そして我々の大学は英語で授業もしておりますし、教員の六〇%が外国人です。そして留学生が非常に多いのです。定員は一二〇名の少数精鋭です。今七〇名の留学生が全世界から来ています。英語で授業をしますから、欧米からも北欧からも或いはイギリスからも来るのです。だいたい日本の大学の留学生というのは漢字文化圏から来て、日本語が出来る学生しか入って来ません。勿論うちも日本語でも教えますけれども、留学生も全世界から来ます。

入学時期は四月と九月

それからこれは安倍首相が「美しい国へ」という本の中で言っている九月入学。私共の大学は四月と九月に入学式があります。そして学長はガウンを帽子を来てきちんとしたセレモニーをやります。留学生にとつては、九月は非常に入りやすいのです。それから六月ぐらいに高校生留学から帰って来た生徒が、七月の試

験を受けて来ます。また高校を三月に終わって秋まで安倍さんが言っているように社会奉仕をやる。或いは世界を漫遊して来てもよい。自分の勉強が足らなければもう一度復習してみる。また高大連携で大学の授業にも出てみる。そしてボランティアもやってみる。こういうことを青年に課すためにも国内的にも九月入学は非常に良いし、また国際的にもまさにグローバル化の時代に対応するそういう一つの転換が出来るのです。ね。これは大変夢のある話です。

英語による授業と留学

また全ての授業を英語でやるというのは、日本の英語教育を根本的に改める。外大でもなかなか出来ませんでした。だいたい英語の先生の九〇%で謂わば文法主義者で、S・V・OとかS・V・Cとかあちらから入って行くから、いつまで経っても聞けないのですよ。聞けても話せない。そういう英語教育を根本的に改めなければいけない。私共の大学は英語については入学前に「OPI」で組み分けをします。そして一学期の終わりにまた「OPI」で組み分けをする。しよつちゅう組み分けをしている。つまり能力別の教育をやっているのです。ところが日本の多くの大学は（大学院もそうですが）仮にフオークナーの専門家であれば

フオークナーの小説をみんなて読ませて終わり。

そういう英語教育が主流なので、そこを根本的に変えなければいけないということ、我々は能力別のクラス編成をしています。戦後の教育の一番の問題点は平等主義なのです。人格的には平等でなければいけないけれども、出来ることはほとんど押し出して行かなければならない。そういう教育をやらない極端な例が小学校で、一、二、三等を決めてはいけなとか、通信簿でも点数を付けちゃいけないとかいうことになつてしまふ。そこを根本的に改める教育。それが第一です。

それから第二に留学を義務付けています。実際に四年間のうちの一年間は海外の大学で単位を取つてくる。決して簡単なことではないです。今大学を卒業する必要単位というのは一、二、四単位です。ですから一年間に平均すると三、〇単位ぐらいを取らなければいけない。最近ちょっと卒業単位が変わりました。単位というのは学校教育法で決まっています、五〇分授業を週三回やった場合に三単位になるのです。日本の大学は四単位が多い。我々は春学期、秋学期です。五〇分授業を週三回やつて十五週、それで三単位です。そういうふうになっています。ですから一、二、四単位のうちの約三、〇単位は外国の大学で取つて来る。

しかも世界のトップの大学と協定を結ぶことが出来ています。従つて学生は留学する前に TOEFL のスコアで五五〇点取らなければいけない。Test of English as Foreign Language です。TOEFL で五五〇点取れないと外国の大学に行つても授業単位が取れないのです。ですからそこは厳密にして五四七点なんていう時も後三点足りない時は一学期延ばしても、五五〇点をクリアさせています。アジアでは北朝鮮より低いとか並んでいるとよく言われるぐらい、日本人の TOEFL 的な英語力は非常に低くなつてしまつたのです。お隣の中国、韓国、台湾、アジアの国も今一所懸命英語教育をやっています。国際コミュニケーションの手段としてはもうどうしても文句なしに英語なのです。私も学生には三言語主義を唱道しています。「母語、日本語と、英語と、もう一つ外国語やりなさい」と。うちの学生のように将来国際社会で活躍する人はみんなそうして欲しいのです。いずれにしても外国に行つて授業が聞けるようになるには五五〇です。

国際教養大学は国内的には受験界では非常にレベルが高いのですが、外国ですぐ有名というわけにはいきませんので、一つ一つ交流協定を結ぶために学長も現地に行ったり、いろいろな交渉をしております。そして世界の有数の大学と締結していま

す。例えば韓国では高麗大学。最近延世大学も加わつております。それから中国南開大学。これは天津の周恩来が出た大学です。南京大学が今中国のナンバーズリーぐらいになりました。それから国立台湾大学。昔の台北帝国です。台湾に行きますと「一九二八年に日本が帝国大学を作つてくれました。台湾の教育は非常にレベルが高くなりました」と感謝を述べてくれます。それから国立政治大学も台湾の総合大学として非常に大きな大学です。そして香港大学の場合は今世界で一番入学が難しい大学と言われています。というのは大陸からみんな香港大学へ入ろうとする。この前身の香港医学院は孫文も出たところですから。そこにうちは五人の枠を持っています。もう一年間留学した学生が帰つて来ましたが、非常に満足していますね。

他の大学もカリフォルニア大学のバークレーとか世界の一流の大学と締結しています。向こうで単位を良い評点平均値で取つて来なさいと言うことで一所懸命勉強しています。しかも公立大学なので授業料が現在凄く安いのです。約五、三万円です。アメリカの大学はもの凄く高いのです。カリフォルニア大学なんか、州民以外は一年間で二五〇万から三〇〇万。我々は公立大学だから、国立と同じで今のところは五、三万でそのアメリカの大学に、或いは香港大学

とか台湾大学に留学できるわけですから、学生にとって非常に魅力です。そしてどうしても差額を払わなければならぬ所は大学が補填しています。これが二つ目の特徴です。そして三つ目の、これは小さな特徴ですが図書館は二四時間開いています。そして学生達は全寮制で、これもとても良いですね。学生達の中には留学生とルームをシェアしている者もいます。もう居ながらにして異文化交流が出来ます。

トップレベルの難関校

しかし、どのぐらいのレベルの大学かということとはなかなか判つていただけない。今国立大学が八七、公立大学が七八だと思います。全部で一五七あります。その国立大学のボーダーラインを河合塾と駿台予備校と代々木ゼミナールの三大予備校が膨大なデータを集めて、それに基づいて難易度を出しています。例えば北海道大学の文学部は七六、七％センター試験を通らないと、合格可能性が六〇％にならないというようなことです。北大の法学部は八〇点。東北大学は文学部、教育学部、法学部がやはり七〇点台の後半から八〇点台の前半です。東京大学はやはり高いです。東大の場合は文Ⅰ、文Ⅱ、文Ⅲ、八六から八七。一ツ橋が八三、八四。法学部はかなり高く

て八七。東京外大の英米科はかなり高いです。八六・七。そこで私共の大学がある公立大学を見ますと国際教養大学は河合塾が八三、駿台が八六・三、代ゼミが八七・〇です。うちと同じぐらいのレベルというのは東大の文Ⅲとか、京都大学ぐらいです。大変嬉しい悲鳴です。

出来て三年目なのですけれども、受験界で奇跡が起こったと言われています。間もなく今年も出ると思いますけれども、朝日の大学ランキングなどを見ますと、ここの一〇年ぐらゐにできた新設の注目大学の中で高校側が評価する大学としては、国際教養大学が飛び抜けています。昨年のランキングでは一五五点。二位の立命館アジア太平洋大学も大変良い大学ですが、五九点でかなり差が開いています。立命館も川本八郎理事長というユニークな職員出身の理事長が、従来のイメージを一新されました。大分にあるアジア太平洋大学も半分留学生を入れています。

そういう大学を我々は作つたのですが、まだ卒業生が出ておりません。しかし幸いにしてこのところ大きな企業などもわざわざ秋田まで卒業生の誘致に来てくれました。全日空がわざわざ東京から秋田まで学生をリクルートするためにもう二度も来てくれました。それから三井物産などもです。まだ三年生なのにもう既に内定が出ています。

ここで一つ面白いことは学生の企業イメージが随分変わっているのです。例えば三井物産とか三菱商事は東京外大などでしたらみんな憧れて行きたがったものでした。うちは女子が多いこともあるのですが、余りそういう所に行きたがらない。もうちょっとイメージが横文字のIT関連のところとかですね。「違うよ」と言うのだけれども、なかなか今の若者の企業イメージが違つて来いています。それは一つの傾向だと思っていますが、学長としてはそこをきちんと指導して行かなければいけない。しかしいずれにしても日本の大学を変えて行くバイオニアになれるのではないかと思っています。

合理的な大学運営

しかし昔のミネソタ秋田校をリノベーションしていますから、余りお金は掛かっていません。我々のところは県議会で散々論争があつて、今の寺田知事が一所懸命推進したわけです。大学を作るのに一〇億ぐらいしか掛かっていないのです。

今交付金がありますが、交付金の割合を出来るだけ減らしてなるべく自前でやって行きたい。今交付金の比率が七一％です。公立大学の平均が七〇から七五％ぐらいなのですが、出来るだけそれを減らして行けば良い。それから人件費を全収入

の六割以下に納めています。私もいろいろな大学に引つ張り出されて諮問会議などに出ておりましたが、そこである学生が集まらない経営の苦しい私学はそれなのに人権比率が七五％だと知りました。そうしますと教職員を運営するために大学を運営しているのです。その私学の大学の理念は非常に良いのだけれども、経営自体は赤字ということなんです。またまそこは幼稚園から高校まで持つていまして、その黒字額で毎年補填しているわけです。そういう大学がこれからどんどん出てきます。

日本には今六三三の大学があるのです。多すぎます。それで私学の四割が定員が集まらない。今年の結果が出るとおそらく五割を超えるのではないでしょう。大学乱立。少子化。大学全入時代。幸いにして私共は今も実質倍率が八・七倍ぐらいで、C日程という最後の五教科三教科、そして最後の英語だけでは一五倍ぐらいですけれども、全国から最後までうちを第一志望にする学生が来てくれています。併願校で一番多いのが何と東京外大とICU(国際基督教大学)、国際教養学部がありますので早稲田です。勿論東大や東北大学との併願も数多くござい

ます。どちらの大学を最終的に選ぶかを追跡調査するのですが、ICUなん

かの場合はだいたい半々なのです。が、外大との併願ですと両方受かると大体外大に行つてしまふ。そこはやはり歴史と伝統なので、私共の方にだんだん生徒が来ることを期待しております。

暫定入学制度

いずれにしても日本に六三三も大学があつて、そしてこれからは学生が集まらなくなる。うちは暫定入学というのをやっています。これも日本の大学で唯一の事なのですけれども、競争は激しいものですから入学試験の成績で線を引くと一点差でも合否が分かれます。

しかし英語だけみると合格者よりも凄く良いとか、少数者ですのでみんな先生が論文チェックをしていますから、総合点は悪いけれども英作文はもの凄く良い、こういう学生は入りたいなというのがあるのです。それを暫定入学とします。一切差別はしません。そして暫定入学者の受験番号も公表して学生達も「自分は暫定入学だから頑張らなくて」と、大変動機付けがはつきりしています。そして二年目に評定平均点よりも良くて、「good」のスコアが平均値を超えた場合には正規の学生になつてもらい、その時に初めて入学金を貰う。こういうシステムです。国立大学でこれをやろうと思つた

ら、「不公平だ」とか必ずいろいろ出てきて、議論だけで一、二年掛かってしまいます。我々の場合は、思い切ってそれをやったら凄く効果がありました。これまで暫定入学で入って来た人達は非常に成績が良い。制度的には科目等履修というのので出来るのです。だいたい授業料と同じぐらいの金額、まあ一科目一万とか一万五千元とか貰う。それで制度的には何等問題がありません。

それから我々の大学がもう一つ非常にユニークなのは、入試にすぐく時間を掛けていることです。国立大学ですと入試委員会があつて全然入試に関係のない先生もたまたま委員の席が空いているとみんな投票でそこに入れられてしまう。うちは職員が非常に優秀ですから、意志決定にも加わります。国立大学の時は事務局長が教授会で私の隣にすわるのでさえも、「大学の自治に対する政府の介入だ」というつまらんことを言う人も居ました。うちは事務局長も意志決定に加わります。人事にも加わります。そして「TOEFL」の専門家もありますし、そして非常にきめ細かく採点をします。

教員の任期制と評価

それから産経新聞が報じていますけれども、うちの大学は三年間の契約制、年俸制。三年間の任期制です。

今回も約四分の一が入れ替わりましたけれども、一五名の教員募集に対して全世界から四〇二名の応募がありました。最初の立ち上がりの時、「秋田に大学を作って教員が集まるか、学生も集まるか」と言われたのですが、最初は戸惑って持っている五七一名が全世界から約二〇名の募集の所に殺到しました。私は全部学長として二ヶ月ぐらい掛かって履歴書を見ました。そして実際に模擬授業をやり、面接をして決めました。今回、約六〇名は秋田に来て、全部模擬授業をしてもらいました。ケンブリッジ大学の博士などは凄いなと思うのですが、研究者としては良いかもしれないけれども、授業をやらせてみると教えるには余り専門的過ぎるという人もやはり遠慮してもらいました。

そういう授業の体制を取りますとそれには評価をするシステムが必要になります。学生の評価。これは今かなりみなやっています。それから次に教員の評価。例えば殆ど内輪でしか見ない紀要に書いて点数が高いとかという大学が多いのですが、我々は易しく啓蒙書を書いたなどという場合でも一二点です。それからずっと秋田に住んでいても全く日本語を話さない外国人が多い。ですから「日本語を習得した」と「自国の文化・伝統・歴史や自身の専門的分野等について、日本語を用いた継続

的な情報伝達・意見交換の場を企画・実施した。」というので一六点です。このように自己点検自己評価、それから学生がやる。そして同僚評価があるのです。ピア・レビューといって、お互いに授業を見るのです。日本の中ではみんなそうですが教室の中では先生は独裁者になってしまふ。そうではなくてお互いに授業の長所・短所を見る。そして上司が評価する。不服がある場合には一〇日以内に文書で学長に申し出る。そして学長が点検し、本人と上司と話し合つて、最後に経営会議で決定します。これはその翌年の年俸に響きます。仮に一千万円の先生がA評価を受けると二千二百万円、D評価だと八百万円。そういうシステムを取つており、学内に一種の緊張感があります。将来的には今アメリカがやっているようなデニユア制度を取り入れたいと思つています。

このように新しい実験をやつておりますので、全国から見学者も非常に多いのです。空港から五分でございまして、是非皆様も見学にいらして下さい。私は信州人で長野県生まれで信州の良さを人一倍強調しますが、秋田もなかなか良いです。自然も豊かですし、温泉もありますし、私は飲めないのですがお酒も美味ししいし、お待ちしております。では是非お出かけ下さい。本日はいろいろお話をさせて頂いたいただきま

中嶋先生、どうも有り難うございました。それでは、代表幹事から一言御礼と御挨拶を申し上げます。

山本代表幹事挨拶

中嶋先生、今日は非常な御多忙の中、国家に取って非常に大事な教育再生会議の中を中座していただき、こうして私共の為に記念講演に駆けつけていただきましたことを先ず深く御礼申し上げます。

中嶋先生は前から産経新聞の正論などでもコラムをお書きになつていらして、私は前から単なる学者ではないと尊敬しておりました。今日はその真髓の片鱗を伺わせていただきました。特に秋田の国際教養大学について、我々が日頃知ることが出来ない大学の内容について披露していただきました。言うまでもございませんが、これからの日本については、少子高齢化をはじめ国運を心配している方もこの中には非常に多いと思うのですけれども、やはり何と言つても人を育てると言うことが重要です。先生には教育界に於いて、国際教養大学のみならず日本全体の教育の改革の為に引き続き御活躍を下さいますよう心からお願ひ申し上げます。本日は誠に有難うございました。

同 台 経 済 懇 話 会

平成19年第33回定時会員総会 盛大に開催

平成19年2月22日(木) 於私学会館
 会員総会 午前10時30分～11時15分
 特別講演 午前11時45分～午後1時
 会員懇親会 午後1時30分～3時



挨拶を述べる山本代表幹事



総会会場

同 台 経 済 懇 話 会 第 三 十 三 回 定 時 会 員 総 会 開 催

〔会員総会〕

議 題

平成十八年度会計報告承認の件
 終了後、代表幹事挨拶

及び会務報告

代表幹事挨拶

平成一八年度は年度報告書の挨拶でも述べましたように、国内外極めて緊迫した一年でありました。幸い国難ともいえる皇統の問題も鎮まり、イラク派兵も世界の絶賛のうちにその任を果たすことができました。また敗戦のしがらみであった教育基本法の改正と防衛庁の省への昇格も実現いたしました。

北朝鮮の核実験の威嚇や、中国の文武に於けるブレッシャーの中で、国民にも国を愛することの大事さに目覚め始める兆しが現れてきつつあるように思われます。

このような中であって、本会は高齢化・減少化の困難にもかかわらず、諸先輩の情誼と御指導の下、会員皆様の熱意と御協力により、更に意義ある豊かで楽しい運営が続けられています。まことに同慶に存じます。

また本会の研鑽による新しい学問や社会的な提案は、同台・偕行会員のみならず、政・財・学界に

も新しい波を起こしているものがあり、また国民の精神的な復興に大きな影響を与えていると申し上げても過言ではありません。

瀬島会長からは「残念ながら本日の総会に出席できませんが、皆様方の力強い精進の姿に元気づけられています。いつまでもこの会を素晴らしい生き甲斐として続けてゆかれますように」との伝言がございました。

志を共にして、生き残った者として祖国への責任を果たそうと私共がこの会をスタートさせてから三三年になりました。力の有る限り、更に精力を振り絞ってこの国家にとって貴重な会の継続発展に努めて参りたいとお願いいたします。

皆様方の一層の御協力を御願い申し上げます。

〔記念講演〕

講 師 国際教養大学学長

中嶋 嶺雄先生

『グローバル化時代の日本と

国際教養大学の挑戦』

〔会員懇親パーティー〕

船木さん(四十七期)の乾杯の御発声で、和気藹藹の会となった。